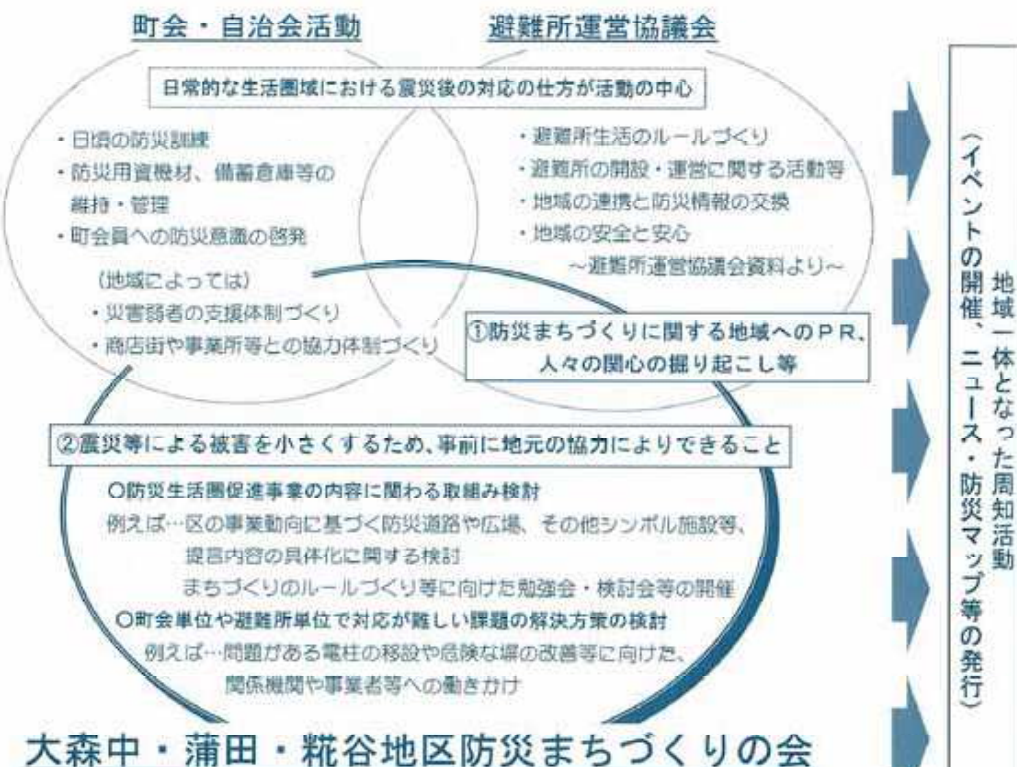


～防災まちづくりの会に求められる役割とは～

防災まちづくりの会の設立にあたり、会の設立趣旨や今後の活動方向等について検討を行いました。この中で、次のような視点からの取組みの必要性について、確認を行いました。

「町会や自治会等の活動をふまえて、より地域一体となった取組みを図る」

今後の防災まちづくりの会による活動と、今までの地元組織による活動の連携・分担については、次のようなイメージとなります。



②



③

～今後の取組みに対する意見(設立総会より)～

平成 12 年度の中心的な活動として、より使いやすい防災マップの作成と、防災イベントの開催を予定しています。

設立総会では、より充実した活動とするため、どんな内容としたら良いか、グループ別に分かれて検討を行いました。以下に、その意見の一部をご紹介します。

- 地域による連携体制**
- この会は「まちづくり」という視点で活動を捉えるべき(防災訓練等は町会等で対応、避難所運営協議会等との連携・役割分担を明確に)。
 - 震災時には、町会役員などの程度動ける力分らない。1人1人が日頃からお互いに隣近所との挨拶やつながりを大切に、いざという時に声掛けできるような関係を持つことが必要。
 - 理想としては、隣近所の協力は必要だが、地域により意識の温度差あり。防災や日頃の地域の活動に受け身となっている人たちが必要性を感じるような活動が必要。(⇒地域に広く啓発する)
- 防災イベントの必要性**
- 学校単位で避難訓練はしているが、阪神淡路の記憶が薄れている。大きな会場で講演会など(映画とセット)を開催し、地域住民の認識を高めることが大切。(⇒町会単位で意識を広げていく)
 - 各町会が連携して、避難所単位で避難訓練を行っている。防災まちづくりの会とうまく絡めて進めることができれば良いだろう。
 - 町会のお祭りの中で、災害弱者への防災ボランティアによる協力支援の呼びかけや取組みをしている。このような視点も活動に取り入れてほしい。
- マップ等による啓発**
- 区の作成する防災マップは大まかでわかりにくい。地域の詳細なマップをつくる必要がある。(三角の区域の中で、より活用しやすいものとする形態が望ましい)
 - 非常時に協力してくれるお店や人をリストアップする地図を作成したらどうか(コンビニ・医者等)⇒いざという時に動ける人材・場所(神社等を拠点に)が必要。動きかけもしてほしい。
 - 地区内の事業所等は、各企業単位で災害時のマニュアルは作っているが、地域との連携の視点はあまりない。今後、協力できる体制づくりを進め、マップ等で紹介できると良いだろう。

